

DevPartner[®] インストール ガイド

DevPartner Studio Professional Edition 8.2.1
DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite 8.2.1



技術に関するお問い合わせは、電子メールでお寄せください。

call.center.japan@compuware.com

このドキュメント、およびドキュメントに記載されている製品には、以下が適用されます。

アクセスは、許可されたユーザーに制限されています。この製品の使用には、ユーザーと Compuware Corporation の間で交わされたライセンス契約の条項が適用されます。

© 2007 Compuware Corporation. All rights reserved.

この未公表著作物は、アメリカ合衆国著作権法により保護されています。

アメリカ合衆国政府の権利

アメリカ合衆国政府による使用、複製、または開示に関しては、Compuware Corporation のライセンス契約に定められた制約、および DFARS 227.7202-1(a) および 227.7202-3(a) (1995)、DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii)(OCT 1988)、FAR 12.212(a) (1995)、FAR 52.227-19、または FAR 52.227-14 (ALT III) に規定された制約が、適宜、適用されます。

Compuware Corporation.

この製品には、Compuware Corporation の秘密情報および企業秘密が含まれていません。Compuware Corporation の書面による事前の許可なく、使用、開示、複製することはできません。

DevPartner[®] Studio および BoundsChecker は、Compuware Corporation の商標または登録商標です。

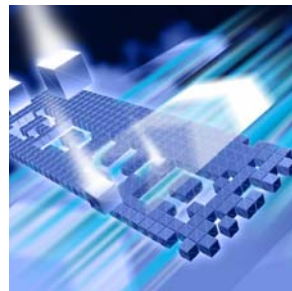
Adobe Acrobat[®] Reader copyright © 1987-2007 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Adobe、Acrobat、および Acrobat Reader は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

その他の会社名、製品名は、関連する各社の商標または登録商標です。

米国特許番号：5,987,249、6,332,213、6,186,677、6,314,558、6,016,466

発行日：2007年10月1日

目次



はじめに

対象読者	v
DevPartner Studio の新機能	v
表記方法	vi
マニュアルの記載内容に関する注意事項	vi
補足情報	vi

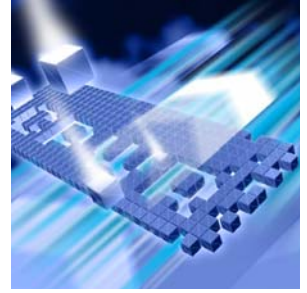
第 1 章

DevPartner のインストール

システム要件	1
サポートされている環境	2
Microsoft .NET Framework	3
DevPartner 8.0以降のバージョンでは利用できない機能	3
ライセンス ファイルの取得	3
DevPartner のライセンスについて	4
リモード データ収集用のインストールとライセンス	5
ファイアウォール アラームのトリガー	5
インストールされる機能	5
Visual Studio の side-by-side 実行	6
インストール	7
DevPartner インストールのトラブルシューティング	8
DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行	9
移行の準備	9
ルール データベースの移行	10
プリファレンス データベースの移行	11

索引

はじめに



- ◆ 対象読者
- ◆ DevPartner Studioの新機能
- ◆ 表記方法
- ◆ マニュアルの記載内容に関する注意事項
- ◆ 補足情報

このマニュアルでは、Compuware® DevPartner Studio® ソフトウェアのインストール方法を説明します。

対象読者

このマニュアルは、DevPartner Studioをインストールするシングルユーザーおよびコンカレント環境で使用するユーザーを対象としています。

このマニュアルでは、ユーザーがMicrosoft Windows インターフェイスおよびWindows ソフトウェアのインストールに精通していることを前提としています。

DevPartner Studioの新機能

DevPartner Studioバージョン8.2.1には、3つの新機能が導入されました。

- ◆ DevPartner Studioは、Windows Vista オペレーティングシステム（Business、Enterprise、Ultimateの各エディション）をサポートするようになりました。
- ◆ 以前のバージョンからの機能であるパフォーマンス分析データとカバレッジ分析データのXMLエクスポート機能に加え、エラー検出、コードレビュー、パフォーマンス エキスパートの各機能のセッション データもXML形式でエクスポートできるようになりました。
- ◆ DevPartner Studio 製品のフルインストールをしなくても、System Comparison ユーティリティを単独でインストールできるようになりました。

表記方法

このマニュアルの表記方法は以下のとおりです。

- ◆ スクリーン コマンドやメニュー名などは、[] で囲んで示します。
例：[ツール]メニューから[オプション]を選択します。
- ◆ ファイル名は**等幅フォント**で示します。
例：『DevPartner ユーザー ガイド』(Understanding DevPartner.pdf) で説明します。
- ◆ コンピュータのコマンドとファイル名内の変数（ユーザーがインストール時に適切な値を指定するもの）は、イタリックの**等幅フォント**で示します。
例：**[移動先]**フィールドに「*http://servername/cgi-win/itemview.dll*」と入力します。

マニュアルの記載内容に関する注意事項

このマニュアルは、英語版のマニュアルを基に翻訳され、作成されています。そのため、日本では販売されていない製品やサポートされていない機能についての記述が含まれることがあります。

補足情報

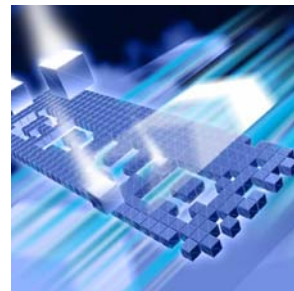
機能レベルのオンライン ヘルプを利用して、DevPartner Studio のソフトウェアの機能や使用方法を参照できます。

DevPartner Studio のコンポーネントについて、さらに詳しい情報が以下のように提供されています。[スタート]>[Compuware DevPartner]メニューの InfoCenter オプションから、Adobe Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルを入手できます。このマニュアルは、DevPartner の CD にも収録されています。

- ◆ DevPartner のライセンスについては、『Distributed License Management ライセンス ガイド』を参照してください。
- ◆ DevPartner ソフトウェアの使用方法については、『DevPartner ユーザー ガイド』を参照してください。
- ◆ 『DevPartner Studio クイック リファレンス』は、DevPartner の機能の概要を提供します。製品をすぐに使用するためのアドバイスも記載されています。
- ◆ 『DevPartner エラー検出ガイド』では、Compuware の DevPartner エラー検出ソフトウェアの使用方法を理解できるように、コンセプトと手順について説明します。
- ◆ Known Issues (既知の問題) のファイルには、DevPartner Studio の既知の問題とテクニカル ノートが入っています。このファイルは、インストール ディレクトリに配置されています。DevPartner ReadMe ファイル内のリンクを使用して、最新の Known Issues ファイルにアクセスすることもできます。

第1章

DevPartner のインストール



- ◆ システム要件
- ◆ サポートされている環境
- ◆ ライセンス ファイルの取得
- ◆ DevPartner のライセンスについて
- ◆ ファイアウォール アラームのトリガー
- ◆ インストールされる機能
- ◆ インストール
- ◆ DevPartner インストールのトラブルシューティング
- ◆ DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行

この章では、Compuware® DevPartner Studio® ソフトウェアのシステム要件と、インストールについて説明します。

システム要件

DevPartner 8.2.1（すべてのエディション）に必要な最小構成は、以下のとおりです。

表 1-1. ハードウェア

プロセッサ	Pentium III、733MHz 以上
メモリ	512MB
ディスクの空き容量	500MB
ディスプレイ	1024 × 768、16 ビット カラー
その他	CD ドライブ

表 1-2. オペレーティング システム

オペレーティング システム	エディション	ブラウザおよび IIS
Windows XP (SP2) (32 ビットのみ)	Professional、Tablet PC	IE 6.0 IIS 5.1
Windows Server 2003 (SP1) (32 ビットのみ)	Standard、Enterprise、Web	IE 6.0 IIS 6.0
Windows Vista (32 ビットのみ)	Business、Enterprise、Ultimate	IE 7.0 IIS 7.0

サポートされている環境

DevPartner Studio は、以下の環境のリリース バージョンをサポートしています。

メモ： サポートされている言語およびプロジェクト タイプの全体的な一覧については、『DevPartner ユーザー ガイド』の「付録 B」を参照してください。

表 1-3. Visual Studio との統合

バージョン	エディション	.NET Framework
Visual Studio 2005	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite (64 ビット環境はサポートされていません)	.NET Framework 2.0 および 3.0* (Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio 2003	Developer、Professional、Enterprise Architect	.NET Framework 1.1* SP1 (Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio 6 (SP5 または SP6)	すべて	該当なし

* 詳細については、「[Microsoft .NET Framework](#)」(3 ページ) を参照してください。

各環境にインストールされる機能の詳細については、「[インストールされる機能](#)」(5 ページ) を参照してください。サポートされているすべての Visual Studio テクノロジーの詳細については、『DevPartner ユーザー ガイド』を参照してください。

Microsoft .NET Framework

DevPartnerを使用するには、ホストマシンにMicrosoft .NET Framework 1.1がインストールされている必要があります。Frameworkは、DevPartnerに必要なシステムレベルのコードを提供します。インストール中、DevPartnerによって、マシンに.NET Framework 1.1がインストールされているかどうかチェックされます。見つからない場合は、インストール中にDevPartnerによって追加されます。.NET Framework 1.1は、.NET Framework 2.0および.NET Framework 3.0と共存します。

DevPartner 8.0 以降のバージョンでは利用できない機能

FailSafeおよびVisual Basic 6.0用のコードレビューは、DevPartner 8.0でサポートされなくなりました。このインストールメンテーションコードは使用できません。DevPartner 8.2.1をインストールする前に、アプリケーションからFailSafeインストールメンテーションを削除することをお勧めします。

インストールメンテーション削除の詳細については、FailSafeのマニュアルを参照してください。

ライセンス ファイルの取得

DevPartnerソフトウェアは、14日間の評価期間を超えて使用する場合、コンピュータのライセンスファイルが必要です。ライセンスファイル(license.xml)は、購入したDevPartnerのライセンスごとにコンピュータより提供されます。

ライセンスファイルは、製品が届く頃を見計らって、注文時に指定されたお届け先にメールで送られます。

メモ： DevPartnerを代理店からお求めになった場合は、日本コンピュータ(03-5473-4527)に問い合わせでライセンスファイルを請求するか、またはコンピュータのWebサイト(http://www.compuware.co.jp/products/devpartner_fm/dps_support.html)でユーザー登録してください。

インストールとライセンス管理についての詳しい情報は、『Distributed License Managementライセンスガイド』に記載されています。

License Administration Utility (C:\¥Program Files¥Common Files¥Compuware¥LAU4.exe)を実行して、コンピュータから受け取ったライセンスファイルをインストールします。14日間の評価期間は1回限りなので注意してください。

DevPartnerをインストールしたいのに、まだライセンスファイルが届いていない場合は、日本コンピュータ、または代理店にお問い合わせください。

DLMを使用する他の製品を利用して、そのライセンスファイルと同じフォルダにDevPartnerライセンスファイルを保存する場合は、ライセンスファイル間の競合や結合、置換などが発生しないように、DevPartnerライセンスファイルの名前を変更することをお勧めします。

ライセンス取得済みのコンピュータ製品があり、ライセンス ファイルを結合することをご希望の場合は、日本コンピュータのテクニカル サポート (call.center.japan@compuware.com) にお問い合わせください。

DevPartner のライセンスについて

すべての DevPartner 製品のソフトウェア ライセンスは、コンピュータの Distributed License Management (DLM) を使って管理されます。DevPartner には、DLM のバージョン 4.1 が付属しています。ライセンス インストールの詳細については、DevPartner Studio CD に収録されている『Distributed License Management ライセンス ガイド』を参照してください。

DevPartner ソフトウェアのライセンスについては、以下のことに注意してください。

- ◆ DevPartner は、以下の 3 種類のパーマネント ライセンスのいずれかで実行できます。
 - ◇ ノードロック ライセンス (シングルシート ライセンス) と呼ばれるローカルにインストールするライセンス (ライセンス サーバーのインストールは必要ありません)
 - ◇ ネットワーク サーバーのライセンス マネージャ データベースに保存されるコンカレント ライセンス
 - ◇ ネットワークに接続されていないコンピュータで実行するボロー (借用) コンカレント ライセンス
 - ◆ DevPartner は、14 日間のトライアル ライセンスを使用して実行できます。14 日間の評価期間は、いずれかの DevPartner 機能が使用された時点で開始します。
- メモ：** System Comparison 機能は、DevPartner ライセンスの下で機能します。System Comparison のユーザー インターフェイスを使用すると、その他の DevPartner 機能がインストールされているかどうかにかかわらず、14 日間の評価期間が開始します。ただし、System Comparison サービスだけを起動して使用する場合は、ライセンスは使用されないため、14 日間の評価期間は開始しません。
- ◆ DevPartner では、コンカレント ライセンスについて、30 分間のアイドルセッション ライセンス タイムアウト ポリシーがサポートされます。コンカレント ライセンスが統合開発環境 (IDE) でホストされる DevPartner 製品に対して使用されている場合、30 分間にわたって DevPartner 機能が使用されないと (アクティブな分析セッションが存在せず、開いているセッション ファイルも存在しない)、ライセンスは解放され、ライセンス プールに戻されます。
 - ◆ リモート マシンからデータ収集を行うには、DevPartner に DevPartner リモート サーバー ライセンスが必要です (「リモード データ収集用のインストールとライセンス」を参照)。

- ◆ Windows のターミナル サービス接続を経由して DevPartner を実行すると、1 ユーザーにつき 1 つのコンカレント ライセンスが使用されます。ノードロック ライセンスは、ターミナル サービス接続を経由した使用をサポートしません。
- ◆ Windows のリモート デスクトップ接続を経由して DevPartner を実行すると、1 つのコンカレント ライセンスまたはノードロック ライセンスが使用されます。
- ◆ Continuous Integrated Testing ソリューションなど、特定のバンドル製品の一部として DevPartner を購入した場合、バンドル製品に含まれているすべての製品を、1 つのライセンスで同時に使用できます。
- ◆ DevPartner では、利用可能なすべてのライセンス パスを使って、ライセンス情報を検証します。DevPartner の起動が非常に長くかかる場合は、有効なライセンス パスを入力したかどうかを確認してください。

リモート データ収集用のインストールとライセンス

リモート システム上でアプリケーションのコンポーネントを実行すると、リモート マシンからパフォーマンス分析、カバレッジ分析、メモリ分析のデータを収集して、DevPartner がインストールされているユーザー/クライアント マシンでそのデータを表示することができます。リモート データを収集するには、リモート データを収集する各リモート マシンについて、DevPartner リモート サーバー ライセンスを購入するか、コンカレント リモート サーバー ライセンスを 1 つまたは複数購入します。

ファイアウォール アラームのトリガー

DevPartner は、Visual Studio で実行されている場合でも DPAnalysis.exe から実行されている場合でも、リモート マシンからセッション データを収集するために以前にインストールされたサービスに接続します。このサービスは、インタープロセス通信トラフィックをリスンします (インターネット アドレス 0.0.0.0、ポート 18441)。一部のファイアウォールでは、このサービス接続によりアラームがトリガーされます。このアドレスを信頼できるアドレスとしてファイアウォールを設定すると、アラームがトリガーされなくなります。ファイアウォールのセキュリティ レベルを最高に設定している場合は、DevPartner がリモート データ収集を実行できないことがあります。この場合はファイアウォールを再構成し、アドレス 0.0.0.0、ポート 18441 でのデータ交換を有効にしてください。

インストールされる機能

DevPartner Studio Professional Edition および DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite でインストールされる機能は、インストール先のコンピュータにある Visual Studio のバージョンによって異なります (下の表を参照)。複数の Visual Studio 環境がある場合は、適用可能なすべての機能をインストールすることも、特定の環境について機能を省略することもできます。

DevPartner Studio Professional Edition でインストールされる機能を表 1-4 に示します。

表 1-4. DevPartner Studio 8.2.1 Professional Edition でインストールされる機能

Microsoft Visual Basic 6.0	Microsoft Visual C++ 6.0	Microsoft Visual Studio 2003 または 2005
パフォーマンス分析	パフォーマンス分析	パフォーマンス分析
カバレッジ分析	カバレッジ分析	カバレッジ分析
	エラー検出	エラー検出
		静的なコード分析
		メモリ分析
		パフォーマンス エキスパート

DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite でインストールされる機能を表 1-5 に示します。

表 1-5. DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite でインストールされる機能

Microsoft Visual Basic 6.0	Microsoft Visual C++ 6.0	Microsoft Visual Studio 2003 または 2005
サポートされていません	パフォーマンス分析	パフォーマンス分析
	カバレッジ分析	カバレッジ分析
	エラー検出	エラー検出

Visual Studio の side-by-side 実行

DevPartner インストール プログラムがターゲット コンピュータ上に Visual Studio 2003 と Visual Studio 2005 の両方を検出した場合は、DevPartner ソフトウェアが両方の IDE にインストールされます。このダブル インストールによって、両環境で同時にコードを開発することができます。

DevPartner をインストールしたあとに Visual Studio 2005 をインストールした場合は、**[コントロール パネル]>[プログラムの追加と削除]** オプションを使用するか、または DevPartner のインストール プログラム (**setup.exe**) を実行して **[変更]** オプションを選択することで、DevPartner のインストールを変更できます。

インストール

このセクションでは、インストールの準備情報を示したあと、DevPartnerのインストール手順を説明します。

インストールの準備

DevPartnerをインストールする前に、以下の点に注意してください。

- ◆ DevPartnerと共にMicrosoft Visual Studio 2005 Team Systemを使用する場合は、DevPartner Studioをインストールする前にVisual Studio チーム エクスプローラをインストールします。
- ◆ DevPartnerを使用するには、Internet ExplorerとMicrosoft Script Debuggerが必要です。インストール中、これらの製品のサポートされているバージョンが検出されない場合、DevPartnerによってメッセージが表示され、詳細情報を得るためのリンクが示されます。

注意： 以前のDevPartner Studioバージョンからアップグレードする場合、そのDevPartner Studioをアンインストールする前に、「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」(9 ページ)を参照してください。

DevPartner をインストールするには

- 1 以前のバージョンの DevPartner を実行している場合は、以前のバージョンの DevPartner をアンインストールし、マシンを再起動します (既存のコード レビュー データベースを維持するには、DevPartner をアンインストールする前に「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」(9 ページ)を参照してください)。

- 2 Windows 管理者 ("admin") 権限でアカウントにログインします。DevPartner をインストールするには、Windows 管理者権限でログインする必要があります。

- 3 ウィルス対策ソフトウェアを無効にします。

DevPartner インストール プログラムで使用するスクリプトによって、ウィルス対策ソフトウェアが警告を発する可能性があります。DevPartner ソフトウェアのインストール後、ウィルス対策を再度有効にしてください。

- メモ：** データ実行防止 (DEP) 設定が `/NoExecute=Always On` として設定され、CPU の Execute Disable Bit が有効になっているシステムでは、DevPartner がインストールされないことがあります。

[データ実行防止についての詳細は、Microsoft サポート技術情報の文書番号 875352 を参照してください。](#)

インストール後に、この設定を変更して `AlwaysOn` に戻すと、DPS Visual Studio パッケージを Visual Studio にロードできなくなります。

- 4 DevPartner CDを挿入し、インストールを開始して、インストールする製品を選択します。DevPartner Studio Professional Editionをインストールする場合、DevPartner Studio、DevPartner Fault Simulator SE、DevPartner System Comparisonをインストールできます。
- 5 一連の画面に従って、インストールプロセスを進めます。

インストールプロセスの中で、新しいコード レビュー ルール データベースをインストールするか、既存のルール データベースを使用するかを確認するメッセージが表示されます。このオプションは、ルール データベースを共有している場合に役立ちます。以前のバージョンのDevPartner Studioでビルドしたルール データベースを使用する場合は、「[DevPartner コード レビューのカスタムルールとユーザー設定の移行](#)」(9ページ)を参照してください。

Visual Studio 2003、Visual Studio 2005、Visual C++ 6.0、およびVisual Basic 6.0がインストールプログラムによって検出され、デフォルトでは、すべての環境と互換性のあるすべての機能がインストールされます。DevPartner コンポーネントがインストールされないようにするには、[コンポーネントの選択]画面で、インストールしないコンポーネントを選択します。
- 6 DevPartner Studio Professional Edition のインストール後、以下の2つの製品もインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されます。
 - ◇ DevPartner Fault Simulator SE。DevPartner Fault Simulator 製品のデモ用のコピーです。Fault Simulator はマネージ コードの例外をシミュレートして、Visual Studio 環境を離れずに .NET Framework エラー処理をテストできます。
 - ◇ DevPartner System Comparison。コンピュータ システム間の相違、または同じコンピュータ上の別の構成間の相違を特定できるツールです。

システム上にどちらかの製品がすでに存在する場合、その製品のインストール オプションは無効になります。

DevPartner インストールのトラブルシューティング

DevPartner では、インストールの詳細情報として Microsoft インストーラ (MSI) のログをキャプチャします。そのログを調べれば、インストールの問題を診断できます。または、コンピュウェアからサポートを受ける場合に、このログをカスタマ サポートのエンジニアに提供することができます。

DevPartner のインストールに応じて、ファイルは **DPS82install.log**、**DPVC82install.log**、**DPPACE82install.log** のいずれかの名前で、次の場所に配置されます。

Windows XP システムおよび Windows Server 2003 システムの場合：
C:¥Documents and Settings¥<user>¥Local Settings¥Temp¥

Windows Vista システムの場合 :

C:¥Users¥<user>¥AppData¥Local¥Temp¥DPS82install.log

MSI ログのほか、以下の情報を準備してください。

- ◆ インストールしているソフトウェアとそのバージョン
- ◆ オペレーティング システムと Service Pack
- ◆ インストールされている DevPartner ソフトウェアの旧バージョン
- ◆ 前のバージョンの削除に問題があったかどうか
- ◆ MSI ログを添付ファイルとして送信できるかどうか
- ◆ インストール中に表示されたエラー メッセージの内容
- ◆ 完全な管理者権限のあるアカウントからインストールしたかどうか
- ◆ インストールをローカルまたはリモートのどちらで実行したか。リモートで実行した場合は、使用したソフトウェア
- ◆ インストール前にウイルス対策ソフトウェアを無効にしたかどうか
- ◆ DEP 設定が /NoExecute=OptIn として構成されているかどうか

DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行

以前に DevPartner Studio をインストールしていて、コード レビュー ルール データベースやプリファレンス データベースをカスタマイズしている場合、これらのデータベース ファイルを DevPartner Studio 8.2.1 に移行する必要があります。これにより、アップグレード中に設定が失われることを防止できます。

DevPartner には、この移行処理を自動化する以下の 2 つのユーティリティがあります。

- ◆ **crupdaterules.exe** : 既存の 7.x 以降のルールを 8.2.1 ルール データベースに移行します。
- ◆ **crupdateprefs.exe**: 既存の 7.x 以降のユーザー設定を 8.2.1 のプリファレンス データベースに移行します。

これらのユーティリティを使用すると、カスタマイズしたルールとユーザー設定が新しいルール データベースとプリファレンス データベースにそれぞれ移行されます。

移行の準備

- 1 DevPartner をアンインストールする前に、安全のため、既存の **CRRules.dpmdb** ファイルと **CRPrefs.dpmdb** ファイル (DevPartner 7.x の場合は **CR7Rules.dpmdb** ファイルと **CR7Prefs.dpmdb** ファイル) をほかの場所にコピーします。

デフォルトでは、以前のバージョンの DevPartner で作成されたデータベース ファイルは ¥Program Files¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview (DevPartner 7.x の場合は ¥CodeReview7) に入っています。

DevPartner のアンインストール プロセスにより、ルール データベースとプリファレンス データベースのバックアップ コピーが作成されます。データベースのバックアップ コピーを作成せずにすでに DevPartner をアンインストールして

いる場合は、自動的に作成されたバックアップファイルを使用できます。このファイルは、DevPartnerのインストールディレクトリ¥Code Review¥Backupに格納されています。

- 2 DevPartner Studioの前バージョンをアンインストールします。
- 3 DevPartner Studio 8.2.1をインストールします。新しいルール データベースを作成するか、既存のルール データベースを使用するかを尋ねるメッセージがインストール画面に表示されたら、新しいルール データベースを作成するオプションを選択します。インストール後は、新しいデータベースが更新されます。新しいデータベースは、以下の場所に配置されます。

Windows XPシステムおよびWindows Server 2003システムの場合：

C:¥Documents and Settings¥All Users¥Shared Documents¥Code Review

Windows Vistaシステムの場合：

C:¥Users¥Public¥Public Documents¥Code Review

- 4 DevPartner 8.2.1のインストール時に作成された新しいCRRules.dpmdbファイルとCRPrefs.dpmdbファイルを、手順1で使用した以外の場所にコピーします。これにより、元のルール ファイルやプリファレンス データベース ファイルの上書きを避けることができます。

「ルール データベースの移行」か「プリファレンス データベースの移行」に進み、目的の移行を実行します。

ルール データベースの移行

- 1 コンソール ウィンドウからDOSセッションを開始します。
- 2 DOSプロンプトで、DevPartnerをインストールしたディレクトリに移動します。デフォルトでは、DevPartnerは¥Program Files¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReviewにインストールされます。このディレクトリには、移行ユーティリティも含まれています。
- 3 このディレクトリから、**crupdaterules**というコマンドを入力し、続けてルール データベースの以前のバージョンへのパスを指定します。以下に例を示します。

crupdaterules C:¥MyOldRulesDb¥CRRules.dpmdb

使用するコマンド文字列は、移行するルール データベース ファイルの場所を指している必要があります。また、コマンドは、1行に入力することが必要です。

既存のルールが、新しいDevPartnerコード レビュー ルール データベースに移行されます。

プリファレンス データベースの移行

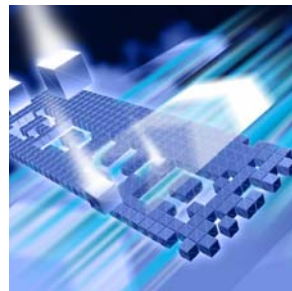
- 1 コンソール ウィンドウから DOSセッションを開始します。
- 2 コマンドプロンプトで、DevPartner をインストールしたディレクトリに移動します。デフォルトでは、DevPartner は `¥Program Files¥Compuware¥DevPartner Studio¥CodeReview` にインストールされます。このディレクトリには、移行ユーティリティも含まれています。
- 3 このディレクトリから、`crupdateprefs` というコマンドを入力し、続けてプリファレンス データベースの以前のバージョンへのパスを指定します。次に例を示します。

`crupdateprefs "C:¥MyOldPrefsDb¥CRPrefs.dpmdb"`

使用するコマンド文字列は、移行するプリファレンス データベース ファイルの場所を指している必要があります。

既存のプリファレンスが、新しい DevPartner コード レビュー プリファレンス データベースに移行されます。

索引



B

BoundsChecker Suite..... 6

C

crupdateprefs..... 9, 11

crupdaterules 9

D

DEP 設定..... 7

DevPartner

 アップグレード..... 7

 カスタム ユーザー設定の移行..... 11

 カスタム ルールの移行..... 10

 機能..... 5

DevPartner FaultSimulator SE ライセンス..... 4

DevPartner for Visual C++..... 6

F

FailSafe..... 3

Fault Simulator SE..... 8

S

System Comparison ユーティリティ..... 8

V

Visual Basic 6.0 用のコード レビュー..... 3

Visual Studio 2005、DevPartner のあとに
インストール..... 6

い

以前の DevPartner バージョン..... 7

か

管理者権限..... 7

こ

コード レビューのユーザー設定の移行..... 11

コード レビュー ルールの移行..... 10

さ

サポート..... 4

し

システム要件..... 1

す

スクリプト、ウィルス対策ソフトウェアによる介入... 7

て

データ実行防止の設定..... 7

テクニカル サポート 4

と

トライアル..... 4

トライアル ライセンス..... 4

ふ

複数の IDE 5

よ

要件 1

ら

ライセンス

 タイムアウト ポリシー 4

 トライアル 4

ライセンスのタイムアウト 4

ライセンス ファイル

 インストール..... 3

 取得..... 3

 テクニカル サポート 4